

平成 31 年（令和元年）度 学校関係者評価委員会 議事録（1 回目）

実施日：令和元年 6 月 18 日（火）10：00～12：00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティール専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一（アリアーレビューティール専門学校 校長）
川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）
近藤文峰（第一学院高等学校 教諭）
山田資喜（愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事）
廣瀬麻美（理容ヒロセ・平成 26 年度卒業生）
藤原さやか（平成 28 年度卒業生）
尾関之一（ベリーバイヘアスポットオゼキ経営）
中川信子（名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長）
中川安行（専門学校 日産愛知自動車大学校 学務部 課長代理）
田口 豊（愛知県理容生活衛生同業組合 副理事長）

順不同

欠席者：委員 近藤文峰（第一学院高等学校 名古屋キャンパス 副キャンパス）
令和元年 6 月 13 日（木）にアリアーレビューティール専門学校にて
意見等を聴取し会議に報告する。

オブザーバー

森山郁子（アリアーレビューティール専門学校 事務主任）
山口 孝（アリアーレビューティール専門学校 広報主任）
高橋秀典（アリアーレビューティール専門学校 美容科チーフ）

委員会次第（概要）

- （1）開会
- （2）学校長挨拶
- （3）第 11 回全国理容美容学生技術大会 東海地区大会の告知
- （4）平成 30 年度 学園広報誌の説明
- （5）通信課程「短期集中コース」の説明
- （6）平成 30 年度自己評価の報告
- （7）平成 30 年度学校関係者評価委員による評価まとめ
- （8）その他意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。
（詳細は後記のとおり）

(8) 閉会

終わりに、校長から令和元年度は第2回目を令和元年12月に行う予定である旨の報告。また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

○山田資喜 委員

評価項目(7)に関して、定員の充足率ですが、中部美容専門学校でも昼間課程の定員数変更(減)、夜間衛生専門課程、夜間通信課程及び夜間理容修得者課程の廃止を決定しました。今年4月の昼間課程入学者数は名古屋校、岡崎校合わせて260名ぐらい。中部の学びの特徴である「トータルスタディ」制度を求めているのはこのぐらいの人数ではないかという考えに至り、定員を320名→280名に変更をしました。夜間課程の廃止については、入学者が1人か2人であり、人件費もそうだが夜間のため警備代もかかり廃止にしました。定員減も廃止も戦略的な変更です。(3)の教育活動 職員の能力開発は現在も富山県理容美容専門学校へ1年間の研修派遣を行っています。新しく採用した職員を派遣し、教員としての実務経験をさせている。他校との連携(ミスパリと愛知美容)も富山県理容美容専門学校との職員研修が中心で募集や教育面での産学連携等はない。

(学校側)：実入学者数が、入学定員を大幅に下回っている現状に対し、これを改善する取り組みを具体的に行うことができず、恥ずかしい限りです。2年前の第三者評価でも抜本的な改革を求められ、抜本的とは具体的には定員を見直せという事だと思っております。教育活動では、評価表にも記載しましたが、専修学校教職員資質能力プログラムの開発に参画し、研修のための研修にならないよう、生産性の高い教育を進める努力をしています。産学連携に関しては、昨年、本日までご出席いただいております名古屋ウェディング&フラワービューティ学院 中川先生より2名通信課程へ入学をいただきました。お互いの強みを活かし学生募集の一助になればと思っております。

○廣瀬麻美 委員

(4)の学修成果のところで、卒業生調査をし、教育成果の現状と課題を明らかにしているとの事ですが、在校生の満足度を上げるためにどのような事に務めて

いるのか、分析をして去年よりどうなのか、課題はわかっているけどどうなのか等その辺りの報告が聞きたいと思います。教職員がもっとアンケート結果に対し、関心を持たないといけないのではないかと。

(学校側)：日々の教育活動の見直し、改善していくために、毎年2月に卒業直近の2年生及び4月入学の新1年生にアンケートを実施しております。今回初めてアンケート結果をホームページ上で公開しました。入学者調査では、入学者の特徴・伝わった「学校の価値」・入学までのプロセス・競合状況等募集広報の現状と課題が明らかになり、また卒業生調査では、学校評価・就職や進路の充実・教育内容の評価・身についた経験等教育成果の現状と課題が明らかになると思っております。ただ、委員のおっしゃる通り、アンケートをやっただけで何の歯止めもかかっていない状況であることは否めないし、分析らしい分析もできていないと思います。次回の評価委員会には報告できるようにいたします。

○中川信子 委員

評価項目(8)に関して、本年10月の消費税率改正に伴う具体的な対応ですが、弊社では、今年は学費を上げません。来年は上げるかもしれません。評価項目(11)に関して、外国人インバウンド対策は何かしていますか？先ほど愛知美容専門学校とミスバリ・エステティックの連携の話がでましたが、国家資格で貴校と連携しているぐらいしかありません。

(学校側)：消費税対策としては、以前10%対応として教材費等の見直しを行いました。今後の費用負担増に際し、具体的な対応が明確になっていないところがアリアールでもあります。インバウンド対策としては、全国理容生活衛生同業組合を中心にサロン営業に関しては業界の動きがありますが、理美容学校間では就労問題もあり、あまり動きを感じません。しかし、弊社では永住権のある方や帰国を条件に受け入れており、毎年のように問い合わせをいただいております。その点では、他の理美容学校に比べて、卒業証書の扱いや、入管対応等外国人受け入れ態勢は進んでいると思います。

○藤原さやか 委員

評価項目(7)学生の受け入れ募集についてですが、通信課程の短期の見方がよくわかりません。

(学校側)：通信課程「短期集中コース」(一般)というのは、一定期間集中(毎日)してスクーリングを実施するという意味で通常の毎週月曜日・火曜日の定期的なスク

ーリングとは異なります。自動車と言えば、合宿免許に近いかもしれませんが、ただそれで在籍期間が短くなるわけでもなく同じ3年間です。高校等在学中の方が、夏休み・冬休み等に一定期間毎日通っています。

○尾関之一 委員

理容・美容は手わざのできる仕事なので、高校等にもっとアピールしていきたいし、学校側でもできないだろうか。

(学校側)：高校との連携に関しては、こちら側がやりたいと言っても相手方にとってアリアーレに対しメリットがないつながらない。有料で教育媒体業者に入ってもらいスポット的に魅力を伝えているに留まっている。社会貢献・地域貢献の一環としての動きは昨年以上に今期も取り組んではいるが、高校生に対しとなると難しい。尾関先生のサロンでお勤めの須田くんのように、サロンのお客さまだった方が魅力を感じ、この世界に入ってくれるのは本当にすばらしいことだと思います。サロンのお客さまの中に、この業界を目指す方がいらっしゃいます。それぞれの立場で魅力作りをしていきたいと思っています。

○中川安行 委員

評価項目(4) 学生成果に関し、退学者数が非常に少なく、何らかの取組をしているのですか？弊校(日産自動車)では、5%~8%ぐらいあり対策を検討中です。また、国家試験(二級自動車整備士、一級自動車整備士、車体整備士)の合格が最終目標です。評価項目(5) 学生支援では、高等教育修学支援制度への準備をしています。

(学校側)：アリアーレでも一時期退学率が高く問題になりました。以降、保護者の方向けに教育アンケートを実施したり、学校開放日を設けたり、現在は年2回、3者面談をしております。弊校も日産様同様、国家試験の合格率が気になるころなのですが、貴校の合格率は長期間にわたって(2004年~2016年)高く、それを広報できているのはすばらしい事だと思っております。日々の授業の取り組みから意識してみえるのだと思います。ぜひアドバイスをいただけたらと思います。今年の学校祭ではお世話になりました。ありがとうございました。

○川野公稔 委員

評価項目(8)に関して、毎回同じような文面を拝見するが、貴校は意思決定が極めて遅い。もっと役員間の役割分担等専決規定を作って物事を適切に判断して

いただきたい。消費税率 10%への対応についても、授業料を上げるのか、指定校の免除額を減免するのか？部門別で決算書類を見ていくと、実感としてわかると思いますが、通信課程のプラスで昼間課程のマイナスを埋めている。どうしていくつもりなのか？今の全体像を見て、どうしていくつもりなのか見解をお願いしたい。

(学校側)：判断力、決定力の無さは申し訳なく、いくら情報やアドバイスをいただいてもこれでは意味がありません。昼間課程美容科の減少が著しく、今の通信頼みで良いとは思っておりません。3月の国家試験の結果はよかったので広報材料にしております。また昨年度から始まりました紹介者制度を利用され、入学された方が何名かおります。役員間でも教務、財務、広報で担当者が決まり教務に関しましては来月の学生技術大会に向け、役員自ら指導に入っております。

○近藤文峰 委員（令和元年6月13日）

評価項目（3）教育活動に関して、現在第一学院では進学に力を入れており（約8割は進学）就職は1割ぐらいです。高校2年生の保護者向けに進学説明会を開催するのですが結構参加されます。生徒の質も変わり、以前は低位校の中退者が多かったのですが、今は目的を持った弊校のカリキュラムを見て入学する生徒も目立つ。通信生高校なので、ある意味偏見で荒れているイメージをお持ちの入学検討の保護者がいますが、弊校の学則であるヘアカラー禁止、絶対制服着用、スマホ厳禁等生活指導はしっかりしており、それをご覧になられると「普通の学校ですね。」と言われる。その成果として退学率は減りました。得意・不得意は仕方がないと思いますが、ルールを守らないのは許しません。評価項目（5）学生支援 連携面ですが、新潟産業大学とWeb学習の連携をしています。だからと言って新潟にたくさん進学している訳ではありませんが。

(学校側)：生徒指導に関しては、マナーの授業やインターンで営業経験等させているが、校内での規律や外部先での行動についてはまだまだ甘さがあると認識しています。厳しくないと結果は出ないと思います。連携に関しては他校や外部企業に目を奪われがちですが、今年度、同窓会を立ち上げ卒業生との連携を強化していく準備が整いました。PTA、後援会、同窓会からアリアーレの魅力を伝えていきたいと思えます。

以上
記録：山口

平成 31 年（令和元年）度 学校関係者評価委員会 議事録（2 回目）

実施日：令和元年 12 月 9 日（月）10：00～12：00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティール専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一（アリアーレビューティール専門学校 校長）
川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）
近藤文峰（第一学院高等学校 教諭）
廣瀬麻美（理容ヒロセ・平成 26 年度卒業生）
藤原さやか（平成 28 年度卒業生）
尾関之一（ベリーバイヘアースポットオゼキ経営）
中川安行（専門学校 日産愛知自動車大学校 学務部 課長代理）
田口 豊（愛知県理容生活衛生同業組合 副理事長）

順不同

欠席者：委員 山田資喜（愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事）
令和元年 12 月 23 日（月）、会議内容を報告する。

中川信子（名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長）
令和元年 12 月 23 日（月）、会議内容を報告する。

オブザーバー

森山郁子（アリアーレビューティール専門学校 事務主任）
山口 孝（アリアーレビューティール専門学校 広報主任）
高橋秀典（アリアーレビューティール専門学校 美容科チーフ）

委員会次第（概要）

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 前回会議からの半年間の学校運営、かつ意見聴収した点に対するフィードバック
- (4) 外国人留学生受け入れの説明
- (5) 高等教育無償化の説明
- (6) 今年度及び来年度に向けての教育・教務についての説明
- (7) その他意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。
（詳細は後記のとおり）

(8) 閉会

終わりに、校長から令和 2 年度も年 2 回開催する予定である旨の報告。また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

○川野公稔 委員

高等教育無償化のお話しがでしたが、弊社がお手伝いをしている幼稚園も無償化の対象になっております。ある幼稚園での対応なのですが、授業料は無償化の上限まで値上げして、その分教材費等を下げトータル金額は変わらないようにされました。無償化の時期と消費税アップの時期が重なり、便乗と受け取られ兼ねないのを憂慮されていました。また無償化分の国からの補填はかなり後になりますので資金繰りの対策も重要になります。アリアーレも今後来年度予算書等を作成する上でどこを削ってどこに注力を注ぐのか、何もしないと支出が増え、今と同じような形で学校運営をされると約年間 200 万円目減りしていきます。来期以降の学費や奨学費（免除額）に対する対応はどのような形なのでしょうか。

(学校側)：無償化の対象校には愛知県内理容・美容学校 25 校中 5 校（中日美容、中部美容、名古屋美容、名古屋ビューティーアート、アリアーレ）が認可を受け、理容学校では当校だけが対象校になりました。対象校だから入学を決めたという高校生もおりました。おっしゃる通り、国からの補填は後からなので、先に正規の額をいただいておいて後から返金するか、本人からは求めず補填を待つかは検討中です。消費税値上げに関してですが、再試験料や補習代、休学手数料等は見直しを図りましたが、授業料・実習費等本体部分に関してはまだ判断をしておりません。今まで通りのやり方で進んで行くと毎年 200 万円の減というのは、単に学費の見直しに留まらず、学校行事等行動から変えていかないと問題解決にはならないと思います。

○近藤文峰 委員

入学者数（10 月通信生、来年 4 月昼間生見込み数）の報告がありましたが、毎年弊社に大学・専門学校等の先生がゴールデンウィークまでに 1 回、推薦入試の締め切り前に 1 回程度来校されます。（早いところは 3 月に次年度のご案内ですが・・・

と言って来校される。)進学先を決めるのは本人ですが、専門学校に関してはオープンキャンパスだけでなく、お願いして平日の通常授業も見て来るように指導している。(授業を見せない学校もあります。)生徒の声からは、学校選びの基準として就職率や資格、授業料のほかにクラスやサポート体制を気にする子もいます。指定校先は学校内に掲示してあります。今年は150名ほど3年生がいますが、まだ20~30名ほど進路未決定の生徒がいます。

(学校側): 高校訪問等に関しては、昨年・今年と教職員だけでなく、(株)さんぼう様にもお手伝いいただいているのですが、進路指導担当にはよく認知されていても高校生にはなかなか届いていないという現実があります。(ある高校で先生はよくても高校生に届かず校内ガイダンスのチャンスをいただけませんでした。)訪問している意味があるのか、高校生とのファーストタッチは何が効果的なのかを探る活動が続いています。

○廣瀬麻美 委員

同窓会ができ、第1回の催しを開催したとの事ですが、全く知りませんでした。たまにフェイスブックを見て学校の現況を知りますが、卒業した後は(学校)HPを見ないし、学校の事を知る必要がない。式典のようなイベントは堅いし、行こうとはならない。つまらなさそう。手軽な形で学校を訪問する機会があると良いと思う。周知の仕方としては学年の代表者をつくってグループラインにするとかはどうでしょうか。同期同士で会ったり、食事をし合うことはあります。

(学校側): 70周年を機にできた卒業生同窓会ですが、スタートしたが何も活動実態がないではいけないということで、9月に神奈川県在住の全理連名誉講師 本田誠一先生をお迎えして講演会を実施しました。中部理容美容教育団体協議会様の大会後の開催で当日の競技会の総評、業界の展望、サロンの広がりについてお話ししていただきました。HP上や組合新聞を活用して告知・周知を図っているのですが、そう簡単ではないことは同窓会幹部も理解しています。小さなグループに対する補助も検討しており、少しでも関心を持ってもらって活用していただけないかと思っています。

○藤原さやか 委員

私も卒業生として同窓会の件ですが、在校生の技術を見ることができる機会を作ってもらってもいいのではないかと思います。卒業生に電話連絡してもいいのではないのでしょうか。卒業して間もない方はあまり関心がないかもしれません。5年、10年経過するとまた違ってくるのではないのでしょうか。

(学校側)：卒業生からは同窓会永年会費として5,000円を昼間生・通信生ともにいただいております。学校パンフレットにも記載しています。まだ始まったばかりで大きな事はできませんが、少しずつでも何か活動をしたいと聞いております。特に美容科卒業生の囲い込みをどのようにしていくのが課題として今後あるのではないかと考えております。

○中川安行 委員

無償化、外国人受け入れ等現行の専門学校としての工夫・課題をお話しされたと思いますが、同じ専門学校として弊校の取り組みをお伝えしますと、無償化に関してはそれに伴い授業料を免除限度額まで上げ、その分免除対象外の教材費を下げてトータル金額は変わらないという改正をしました。(配分を変えた。)外国人に関しましては、オープンキャンパスも日本人より多く、300名ぐらいが来校されます。数としては年々倍増しております。日本語試験N1、N2合格者は来ません。N3の合格がなくても授業に支障がないと判断した場合は入学許可をしますし、逆にもう1年先にした方がいいというアドバイスもします。外国人留学生在籍していることによる自動車関連の国家試験合格率に影響は出ていません。弊社としては外国人入学者の比率を実入学者の50%未満にしておりますが、名鉄自動車さんは3分の2以上が外国人です。入学試験は日本語試験・数学・面接を実施、一人当たりの試験時間は4時間～5時間かけておこなっております。面接は1時間以上かけ、アルバイト時間を守っているか等の確認もしています。経費の支弁には注意しており、母国の親の残高証明等確認します。今はパソコン・スマホにて画像で送信してもらっていますので時間が大きくかかることはないです。留学生に対し、授業料等の減免は特になくN2取得者には25万円免除しているぐらいです。就職企業等からの奨学金制度(60万円～100万円)があつたりしています。学校訪問の課題も上げられましたが、年3回ほど学校訪問専属の方が回っており、指定校案内を持参したり、まだ進路先が決まっていない高校生へのアプローチをしています。

(学校側)：外国人の受け入れに関しては5年以上前から情報収集をしており、永住権がある方や就労制限の無い方はもちろん、一般の留学生の受け入れも行っております。ただ今年に入ってから格段に日本語学校からの問い合わせが多くなり、今年だけで5校の日本語学校の先生及び留学生が来校されました。今後増えるであろう留学生の入学から卒業までの対応に関し、今まで以上にベストな体制を模索しております。アドバイスありがとうございます。

○尾関之一 委員

外国人のお話しが出ましたが、以前中国人スタッフが勤務していた時、中国人のお客さまが増えました。言葉のギャップがあり現在は退職しましたが、そのようなことがありました。別の話になりますが、学びの点で少し考えを申し上げさせていただきますと「手に技」をつける仕事である点を考えると通信でサロンに勤務しながら学校に通った方がいいのではないかと考えております。自分自身は昼間生だったので矛盾してしまうのですが、今、経営者の立場になるとそのような気がします。(無償化に伴い、通信よりも昼間の方が学費減免や生活補助が手厚いため費用を抑えることができる点を踏まえてのご意見。) 同窓会に関しては、自分ぐらいの年齢になると行きたくなくなるし、子どもにも見せたくなくなってきますね。

(学校側)：サロンに外国人スタッフがいると、外国人のお客さまは安心して入店できますね。そういう視点があると思います。売り上げにも結び付いていきますね。昼間課程、通信課程それぞれに良さがあり、またマイナス面もあります。入学生の状況に合わせて選択していただければいいと思いますし、学校としては昼間生の学生確保に苦慮しておりますので、制度を最大限活かせる提案はしていきたいと思っております。同窓会はぜひご参加くださいませ。

○田口 豊 委員

本日ちょうどこのあと午後から、県庁にて外国人インバウンドの会議があり、今対策を練っているところであります。現在は理容・美容には就労制限があるのは事実であり、では今後組合として外国人就労の制限撤廃を働きかけるかと言うと、そのような動きはまだないです。

(学校側)：留学生自身も専門学校進学希望は増えており、またサロン現場でも多様性を持って集客を見込める、学校も少子高齢化の中で定員充足率問題を図る一助になれば「三方良し」の関係になりますね。今後の動きを注視していきたいと思っております。

以上 記録 山口